

1学期の調べ学習のまとめを踏まえ、実際に自分たちができることを考え、2学期にはそれを実践することを目指しました。第5～13時は「自分たちの力でできること」をチームで考える時間です。「学び方や課題を選ぶ」（選択）、「友達と考えを共有し、自分の考えを更新する」（協働）場面を仕組みました。



実験の準備をする  
子供たち



学習計画へ

実験開始



通学路の奥までごみを探しに行く子供たち

**【学び方や課題を選ぶ】**

「海に浮かぶマイクロプラスチックごみを減らしたい」という思いをもったチームAは、バイオプラスチックに着目し、自分たちにできることを話し合いました。家にあつた店のビニル袋やストローがバイオプラスチック製であることを知った児童Cは、「本当に溶けるのか実験しよう」とチームに提案しました。児童Dは、「実験結果がわかったらみんなに知らせて、使ってほしい」という思いをもちました。

**【友達と考えを共有し、自らの考えを更新する】**

チームBでは、「川のごみは周囲の陸から落ちてくることが多い」という児童Eの発言を聞いた児童Fが、「通学路から少し離れた、人目につかない場所にも行ったほうがよい」と提案しました。2人の提案を受け、学区地図を見ながら、どのあたりにごみが多いかを予想し、活動するルートを話し合いました。

**教師の働きかけ**

イメージマップを活用し、チーム内の思考を整理させる時間を設けることで、活動に向かえるよう支援しました。

これまでの学びの蓄積や参考になるサイトを用意し、自分たちで調べられるようにすることで、「バイオプラスチックに関して自分たちが活動できることはどんなことがありそうか」と考え、選択できるようにしました。

子供たちが主体的に話し合いを進めることができるように、1学期の調べ学習の成果など、根拠をもって提案するとよいことを伝えました。

根拠をもって伝えるよう促したうえで、互いに考えを共有し、よりよい方法を選択できる環境を整えました。

実際に自分の目で見た様子や調べた情報など、根拠をもって話し合うことで、「自分たちで実験する」「実際に行ってみる」「地図を見て話し合う」など、協働して「学び方」を選択し、学びを進める子供たちの姿が見られました。

友達と考えを共有することで、これまでの自分の選択を振り返りながら、よりよい考えを求めようとする姿が見られるようになりました。

